

第43回「全日本中学生水の作文コンクール」
宮城県地方審査会優秀作品集

『水』について考える

宮 城 県

はじめに

水は命の源です。水は、私たち人間だけでなく地球上のあらゆる生物にとって欠くことのできない貴重な資源です。また、使えばなくなってしまう石油などの化石燃料とは異なり、太陽の恵みによって太古の昔から変わらずに地球上を循環している資源でもあります。

このような循環を通じて、水は私たちの日常生活や社会活動、あるいは自然環境や生態系を支える貴重な役割を果たしています。加えて、最近では、水源や流域における水質の保全、水辺環境の保全と創出、おいしい水への志向など水資源に対する国民のニーズも多様化しています。

一方で、我が国は比較的降水量に恵まれているとはいえ、地形は急峻で平地が狭いため、一人ひとりが利用できる水の量は決して豊富とはいえません。近年、全国のいたるところで渇水が発生し、私たちの社会生活に大きな影響を与えています。

このような状況の中、水循環基本法では、8月1日を「水の日」と定めており、この日を初日とする1週間は、「水の週間」として、国や県が、水の貴重さや水資源開発の重要性などについての理解を深めるための様々な啓発活動を行っています。

「全日本中学生水の作文コンクール」は、こうした啓発活動の一環として、昭和54年から行われており、日常生活での体験や、御家族、先生方から学び聞いた話などに基づいて作文を書くことで、次代を担う中学生の皆さんに、水について考える機会を持っていただくことを目的としたものです。

今年は第43回目を迎え、県内の各中学校の御協力を得て多数の応募がありました。県内の中学生から応募いただいた作文は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の体験を踏まえた内容のものが多く寄せられたほか、日々の身近な体験や発見から生まれた「水を大切にする心」が率直に綴られたものもありました。これら作文の中から、今回の宮城県地方審査会における優秀作品を御紹介します。ぜひお読みいただき、皆さんが「水を大切にする心」をいつまでも持ち続けるとともに、一人でも多くの方々にその心を広めていただくようお願いします。

令和3年8月

宮城県環境生活部環境対策課

も く じ

●優 秀 賞（3編）

- | | | | |
|------------------------|-----------|-------------|---|
| ・生命の故郷、水
【中央審査会 佳作】 | 仙台市立愛宕中学校 | 遠藤 悠馬 …………… | 1 |
| ・水を守ること
【中央審査会 佳作】 | 仙台市立郡山中学校 | 小林 橙子 …………… | 2 |
| ・水と緑
【中央審査会 佳作】 | 仙台市立郡山中学校 | 櫻庭 日向 …………… | 3 |

●入 選（3編）

- | | | | |
|-------------|-----------|-------------|---|
| ・命の水を未来へ | 岩沼市立岩沼中学校 | 郷内 真海 …………… | 4 |
| ・偉大なる母、水 | 仙台市立郡山中学校 | 坂本 悠歌 …………… | 5 |
| ・水の恐怖と共に生きる | 仙台市立郡山中学校 | 鈴木 来佳 …………… | 6 |

●佳 作（環境生活部長賞）（4編）

- | | | | |
|--------------------|------------|-------------|----|
| ・水への意識 | 仙台市立郡山中学校 | 青野 楓夏 …………… | 7 |
| ・これは九年後の私の水タイムカプセル | 気仙沼市立松岩中学校 | 小松 愛日 …………… | 8 |
| ・身近にある大切なもの | 石巻市立青葉中学校 | 庄子 礼 …………… | 9 |
| ・美しい水の風景 | 仙台市立郡山中学校 | 畠山 紗世 …………… | 10 |

（同一賞内は五十音順で掲載しています。）

●第43回「全日本中学生水の作文コンクール」募集概要 …………… 11

●「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査会における本県のこれまでの入賞者 …………… 13

【優秀賞】

生命の故郷、水

仙台市立愛宕中学校
二年 遠藤悠馬

今から約六億年前、海に初めての動物が生まれました。やがてそれらは進化を重ね、今では、魚、鳥、そして人間と、姿形を変え、世界中に生息範囲を広げました。海は生命の源点、生命の故郷なのです。

私は小学生の頃に、何度か海の環境について、考える機会がありました。その一つが、仙台市にある茂庭浄水場の見学です。ここでは、森の環境保全が、川を通じて海へつながることや、牛乳や油などを家でシンクなどに流してしまうと、魚が住める水に戻すために多くの水が必要になるとを聞きました。牛乳二百ミリリットルでは、バケツの水約三百杯分、油五百ミリリットルであれば、バケツの水約九千九百杯分もの水が必要だそうです。見学を通して、自分達の大切な故郷を、自らの手で汚してしまいうような過ちを生んではいけないと感じました。一人一人が環境問題へ真剣に向き合う事が、何よりも重要なのではないかと考えるようになりました。

しかし、環境問題の解決とは、単純なものではありません。例えば、環境汚染の主たる要因と言われている工場廃水は、主に海藻類の成長を促進させる窒素を供給します。実際に、昔と比べて現在は、海苔の色が落ち、質が悪くなってしまう現象が起こっているそうです。私たちは、状況を的確に判断し、適切な行動を取る必要があります。

それでも、抗いがたい水質汚染が起こることもあります。自然災害によるものです。二〇一一年に発生した東日本大震災では、津波によって建物や自動車がくずれ、瓦礫やガソリンが海に流れこんでしまいました。そればかりか、実際に、流れこんだガソリンが炎上する事故も起きています。それらによって、水の中で暮らす生き物は姿を消してしまいました。

私は中学生となり、被災地である仙台市若林区の荒浜を訪ねました。私
が荒浜を訪ねた際、深沼海水浴場は美しい姿を取り戻していました。復興
です。現在まで、10年に及ぶ復興に向けた取り組みによって、瓦礫などは
片付けられ、豊かな自然が戻りつつあります。そしてそれは、荒浜に限つ
たことではありません。被害を受けた全ての地域の人々が協力し、復興に
力を入れました。その結果、十二メートルもの津波に襲われた宮城県仙
沼市は、三カ月余りで水揚げを再開しました。そして、震災があつたのに
も関わらず、カツオやメカジキ、サメの水揚げ量では、前年に引き続き、
全国一位を獲得しました。団結し、協力することで、強い意志と力が生ま
れます。どんな状況でもくじけず、その思いを胸に、我々は海や水資源を
守る策を尽くさなければならぬと思います。

豊かな海と森に囲まれた宮城県。私が住むこの地域のために、私ができ
ることは何があるのでしょうか。海岸でのごみ拾い活動や、植林活動への
参加、もちろん、節水など、ささいなことでも、決して無駄なことはありません。積み重ねた努力は、必ず結果へとつながります。今からでも、環
境保全に貢献し、宮城県を、私たちの町を、よりよいものにしていきたい
です。生命の故郷である海や水資源を後世へつないでいくことが、私たち
に与えられた役割なのです。

【優秀賞】

水を守ること

仙台市立郡山中学校
三年 小林 橙子

二〇二一年二月十三日の夜、東日本大震災の余震と考えられる地震が起きました。この地震により仙台市や周辺地域が水源とし、取水する大倉川の上流の民家で、灯油タンクが破損し、油が流れるという出来事が発生しました。

そのため、県内では多くの家庭が数日間断水となり、不自由な生活を強いられました。我が家に被害はありませんでしたが、改めて水について考える機会となりました。

普段から手伝いで食器を洗う際、油を排水溝に流さずに拭き取るようにしています。油を拭き取ることで、使用する洗剤を少量に抑えることができるのです。このようにして水を汚さないよう努力するのは、自分たちが快適に過ごすためではありません。次の世代につなげるためでもあります。水は有限の資源です。私たちが無駄使いをしたり、水を汚したりすることで、次の世代が使う水がなくなってしまう可能性があります。水を守ることは地球を守ることに直結するのです。油を拭き取ることだけでは、水の汚れは大して変わらないかもしれません。でも、何万人、何千万人も人が行えば、何か変化が起きると思います。まずは小さなことを積み重ねていくことが、水、次の世代、そしてこの地球を守っていく方法なのです。

以前私は、茂庭浄水場を見学しに行ったことがあります。その際に感じたのは、水をきれいにするのはとても大変だということです。様々な機械でゆっくりと時間をかけて、ようやく私たちが使用する水になります。浄水場の施設が停止すれば、断水以上の被害が起きると思います。

十年前の東日本大震災では浄水場が停止したと母から聞きました。浄水場が停止してしまうと、私たちが生活に使う水はなくなってしまいます。水がなくなると、私たちの生活は一変してしまいます。浄水場のホームページには、一人が一日に使用する水の量が掲載されていました。約二二〇リットルです。普段から節水を心掛けていたのに、これだけ自分が水を使用していたのか、と驚きました。それと同時に、大きな災害が起きたらどうなるのか、という考えも頭の中に浮かびました。何万人もの人々に給水車の水や備えてあった水を配布すれば、それらはすぐに底をつくと思います。災害時に困らないためにも、普段からより節水を心掛けることがこれからの生活で大切になっていきます。菌磨をしたり、顔を洗ったりする際、水を出しっぱなしにしないよう、まずは自分が努力していこうと思います。

私はこの作文を書くことで気づいたことがあります。自分が普段、あまり節水をしていなかったことです。改めて自分の生活を見直してみると、自分は節水できていると思っていたのに、できていないということが意外にも多くありました。

水は私たちの生活に欠かせない大切なものです。有限の資源である水を次の世代に残し、つなげていくために二つのことを心掛けたと思います。一つ目は、水を汚さないことです。そして二つ目は、節水です。この二つを心掛けて、水を汚さないようにし、水を使い過ぎないようにする、このようにして水を守っていくことが、今私たちにできることであり、今しなければならぬことだと思います。

【優秀賞】

水と緑

仙台市立郡山中学校
三年 櫻庭日向

水は私たちが生きていくために欠かせないとても大きな存在です。

私は以前秋田県に住んでいました。秋田県は、たくさん自然に囲まれており、その土地の気候を生かしたおいしい食べ物があります。私はこれらを生みだしている一つでもある森林と田畑が水をうまく循環させるための鍵になると考えました。

まず秋田県の森林といたら世界遺産である白神山地の美しいブナ林を思いうかべる人が多いと思います。私も小学生の頃、一度だけ家族と一緒に訪れたことがあります。とても天気の良い日で、車から出た瞬間すしい風や鳥たちの声、いろんな音が聞こえてきました。そして、あたたかい光が木と木の間からさしこんでいて、幼いながら「きれい」と感じたことを今も覚えています。

ほかにもいろんな森林がありますが、森林は、あたたかい自然を感じさせてくれるだけではありません。

森林があることで、雨の力をやわらげたり流れをおそくすることができません。根が土をしつかりつかんでいるので土砂が流れてくるのを防いでくれます。また、海岸側の森林は強い風や砂、津波などから家を守ってくれます。そして多くの雨をゆつくりと時間をかけて地下に流れる間に、ミネラル分が多く含まれた、きれいでおいしい水を蓄えることができます。

私は、人が木を植え、育てることが住みよい生活を送ることへの大きな一歩につながると 생각합니다。

そして田畑についてです。農業の中には、米や野菜などの作物を作る田畑があります。ですが、田畑は作物を作るだけでなく、森林と同じように

さまざまな働きがあります。

田畑があることで、一時的に水をためて、川に流れる量を減らすことができます。このため、川があふれて洪水になることを防ぐことにつながります。また、田畑はこまめに手入れをすることで、土のひびわれなどを早期に発見することができます。そして作物を作っていくことで、大雨が降っても雨は田畑にたまり地下水が増えないため、土砂くずれなどの災害が起きにくくなります。逆に長い間作物をつくっていないと、大雨が降ってしまったら水がたまらず地下水が急激に増えて、土砂くずれが起きやすくなります。

このように田畑があることで、作物を作り水を蓄え、洪水や土砂くずれを防ぎ、きれいな地下水をつくっています。なので、あるのとないのとでは大きな違いがあります。

私は、森林と田畑のさまざまな働きについて理解を深めていくうちに、どちらにも共通する働きがあることを発見しました。水を蓄えきれいな地下水を作っていることや、災害が起こったとしても防ぐ方法があること、他にも、たくさん生き物たちのすみかにもなっていることです。水は不幸を引き起こしてしまふけれど、私たちが自然と共につながりあって生きていくことで、防げることが増えていけば、うまく水と関わり合っている未来が続くのではないかと私は思います。だからまずは、水と私たちの生活の関係について理解を深め、森業や農業などを活発にしていき継続していくことが、これからの私たちに大切になってくるのではないのでしょうか。

【入選】

命の水を未来へ

岩沼市立岩沼中学校
一年 郷内真海

私の名前は、真海^{まりん}です。父が、大きな海のように真つ直ぐに広い心を持って、育ってほしいという意味を込めて、つけてくれました。

二十一年三月十一日、私がまだ二歳のとき東日本大震災という大津波が起こりました。私の住んでいる岩沼市も、この津波で大変な被害にありました。家族が大好きだった海は姿を変え、沢山の大切な命と大切な物をうばってしまいました。水や電気が何週間も通らない中、兄や姉が毎日水くみへ行き、飲み水の確保で精一杯で、お風呂に入ることができなかったそうです。今は、じゃぐちをひねれば簡単に水が出ます。震災が起こると、いつも当たり前のことができなくなってしまうのだと分かりました。

私の家の近くに浄水場があります。台風や豪雨被害によって、各地が洪水になり断水になったとき、朝早く浄水場から給水車が何度も往復していました。ときには、となりの県や近い県に、給水車が応援に行くこともありました。私はその姿を見て、見えないところで沢山の人が水と関わり、命のような水を運んでいると思いました。そして、帰ってきた給水車のおじさんに手を振ると、笑顔で振り返ってくれました。いつも大切な水をありがとうございますという感謝の気持ちで、手を振りました。

世界では多くの発展途上国で、水くみは子供達の仕事です。水の重さにたえながら、生きる為に毎日遠い道を何度も歩き、水を運んでいます。アジアで水道水が飲める国は、日本を除いてアラブ首長国連邦しかありません。日本人の私たちは生まれたときから、じゃぐちをひねればきれいな水が飲めます。お風呂に入ったたり、体を洗ったりすることができます。もし

今の生活が急に出来なくなってしまうたら、学校ではなく水くみに行かなければなりません。このように考えるだけで、日本はとても幸せな国だと思えました。津波によって悲しい思いをしても、生きていく為には水が必要です。私たちは、どんなことがあっても川や海を大切にしなければいけません。今世界で起きている環境問題は、ほとんど人間が便利になるという理由で起こっています。地球温暖化は、南極の水が溶け海面が高くなってきています。海洋汚染は、マイクロプラスチックで海洋生物たちの生態系が変わり、生物よりもゴミの方が多くなると言われています。水質汚染は、日本の原因七十パーセントは生活排水によるもので、台所から流れる調味料や油などによる影響が多いようです。私の家では油を固めてから捨てるようにしています。大気汚染は、酸性雨により森林や農作物などからしてしまいます。森林破壊では、地球の気候変動にも影響を及ぼします。森林の役割は、地球上で排出された二酸化炭素を光合成のもととして吸収する役割を果たしています。二酸化炭素の排出が増えると、地球の温度や海水の温度が上昇し、地球温暖化が起こります。すべて生きるために水がなくなっています。このままの日本で良いのか？日本も茶色の水が出るのではないのでしょうか？私は真海なので、川土手や海岸や地域のクリーン活動に参加し、大切な真実の海を取り戻していきたいです。そして、これらの未来へのバトンを自分の手でつなぎたいです。

【入選】

偉大なる母、水

仙台市立郡山中学校
三年 坂本悠歌

紀元前三千五百年前、メソポタミア文明は二つの川の流域で生まれた。エジプト文明はナイル川の流域で生まれた。新石器時代には世界各地で文明が発達したが、その条件に共通していることは大河の流域にあることだ。現在、世界をリードする工業は沿岸部や湖川の近くで成長している。これは今までも、これからも私達の生活には水が必要不可欠であることを強く意味していると私は考える。

それは恵みを受けることの関わりだけでなく災いを受けることの関わりも同じように。日本は降水量世界第三位であり、世界平均を上回っている。最近の豪雨災害の様子からもその恐ろしさが伺える。さらに地震が多い日本では津波による災いもたらされるのだ。いつも何気なく使っている水が黒く濁り、化け物のように追いかけてくる。あんな光景は、二度と見たくないと恐怖心に支配される。

このように水は人類に文明をもたらし、文明を発達させてくれる一方、洪水や津波などの災害で人類の命を奪ってしまう。

ただ、私達は水と関わり合わずに生きることは不可能である。雨が降らなければ植物は育たず、それらを食料とする動物も死んでしまう。海がなければ魚もいなくなる。私達は食料を失い死んでしまう。また同様に水源がなければお風呂もトイレも使えず、けがをしても細菌を流すことができず、何もかもが不便になることだろう。

そのため、世界では私と同じ年、あるいは年下の子が学校に行かず水をくみに長い距離を何往復もしている。それほど重要度が高いのだ。

日本は蛇口をひねれば水が出てくる恵まれている国だけれど、いつもあ

たりまえにそこにあるものと勘違いしてはいけぬ。地下水があと十年で枯渇すると分析する専門家もいる。

限りある水資源を未来へ残すために私たちにできることは、食べ残しをしない、油污れは流さずに紙でふく、汁物は残らないようにつくるなど簡単なことばかりだ。いつもの家事に手間加えるだけで自分の未来を守ることができる。水がなくなれば美しい景観も失われてしまう。海も雲も虹も雪も魚も人でさえ消えてなくなる。地球上で水はなくてはならない母のような存在であると私は考える。生命は水から生まれ文明は水によって栄え、現在の工業は水に支えられている。いつもそばにある水がなくなつてから考えても遅すぎる。水がなくて水たまりの水を飲む子供たち、学びたくても水のために学校に行けず、将来働けない人達を救いたいと思っ

私は将来、大学に行つて水についてもっと研究したいと思っ

うやったら水を長持ちさせられるか、どうやったら未来の子どもたちに水資源を残せるか、などのことについての研究である。今すぐに新しい方法を見つけないと水がどんどんなくなってしまう。地球から偉大な母が消えてしまう前に解決策を見つけないのだ。

だが、今できることはとても簡単なことだから、多くの人に実施できる内容だ。自分が、あるいは自分の子どもが水たまりの水をすすっている姿を想像してみると、ひどく恐ろしい光景である。そんな未来にならないためにも多くの人が水を守る必要がある。未来への投資と考え、水を守る活動に協力していこう。

【入選】

水の恐怖と共に生きる

仙台市立郡山中学校
三年 鈴^{すず}木^き来^{らい}佳^か

水は大切な命の源です。ですが水には怖さもあります。

今から約十年前、東日本大震災がありました。当時、私は四歳で西中田に住んでいました。

幼稚園から帰ってきて、母と弟と家に居るときに地震はきました。私の家は停電になったのでテレビが見られず、ラジオでニュースを聞いていました。

私の親戚は石巻に住んでいたので、津波の影響で家の中にも水が入り何日もお風呂に入れなかったそうです。だから石巻から何人も親戚がプロパンガスだった私の家にお風呂に入りに来ました。

私の家はテレビがつかなかったのを見ていませんが、海の近くの地域では流される家や人々の姿も映っていたそうです。

地震がおきたとき、私は弟とテーブルの下に隠れました。停電で電気はつかなかったけれど、幸いガスと水は出たのでお風呂や水には困りませんでした。

東日本大震災を通して水の怖さや水のありがたみを実感しました。

日本は地震が多い国でいつ何が起るかわからないので、みんなが一人ひとり日頃から水を大切に使うように心がけることが大切だと思います。

水が足りなくなってしまうたら、家や学校でも水が使えなくなってしまうところか、お風呂や洗濯機、水洗トイレも使えなくなってしまう。

また、工場や農作物もダメージを受けてしまいます。そのためにも節水や環境保護を意識することが必要だと思います。

節水は、洗濯はまとめて洗いすすぐ水を節約したり、歯みがきや手洗い

の時は水を出しっぱなしにしないことなどです。環境保護は絵の具や墨は紙でふきとってから洗ったり、使った油は固めて捨てたり、紙でふきとってから洗うなどがあげられます。

私達が水を安心して使うためには、ダムを作る人、水を送る人、水をきれいに保つ人などいろいろな人達の努力、そしてダムのある町や村の人々の理解と協力があります。

水を大切に使うことは地球の資源を大切にすることです。

「水」は資源であり、無尽蔵にあるものではありません。

これから数十年、今のような水の使い方をしていると、いずれ喝水がおこってしまう。そうなるとダムや貯水池、川の水が少なくなってしまう私達の生活に大きな影響がでてしまいます。

「暮らしを支える地球上の水」の総量はおよそ四十億年前からほとんど変わりません。

なのに毎日約七億人の人々が苦しんだり、喝水がおこったりするのは、私達の水の使い方に問題があるからだと思います。

喝水は私達の暮らしに大きな影響を引き起こすとても深刻な問題です。水を大切に利用しようという気持ちは、思いやりのある住みよい社会をつくり、生命と地球環境を大切に守ることもつながります。

私達がこれからも水を使うためには、一人ひとりが水を大切に思い、節水することが大切です。みんなで協力して水、環境、そして資源を守り、小さなことでも節水をして、水と向き合い、水を守ることで住みよい社会をつくっていくことが大切なのではないでしょうか。

【佳作（環境生活部長賞）】

水への意識

仙台市立郡山中学校
三年 青野楓夏

皆さんは水を大事に使っているだろうか。私は水について考えることが少なく、いつも雑に水を使っていた。

そんなある日、先生から水についての作文を考えてくるように言われたのだ。私は水について考えたことがなかったので、祖母に聞いてみることにした。祖母の家は、高い所にある小さな町だ。その町は水がとでもきれいで冷たくおいしい。そんな水が有名でおいしい所に住む祖母に聞いてみた。

「おばあちゃん家の水はどこからとっているの？」
すると祖母は、

「昔は井戸の水を使っていたけど、今は漆澤ダムの水を使っているよ。」
と答えてくれた。私は井戸のことが気になったので、井戸についてもっと聞いてみることにした。

祖母の町には、ほとんどみんな井戸がある。でも、使っている人は数人ほどしかないそうだ。なぜなら、地下水には、有害物質がたくさん含まれているからだ。だから、保健所に検査してもらわないと、飲み水やせんとくなどには出来ないそう。しかし、昔は井戸から水をくみ、トイレの水やせんとく水にしていたそう。東日本大震災の時にも、電動発電機を使い、井戸水をくみあげて水を使っていたそう。そう考えると、井戸の水は、こわい面もあり、良い面もあると思った。

今の世界の水は不平等だ。私たち日本のように、たくさん水を使える国もあれば、コップ二杯分しか一日に使えない国もある。今の祖母の話のように、井戸水をくまなければ水を利用できないこともあれば、川まで水を

くみにいかなければならない国もある。

そのような中、地球は水の惑星と言われている。地球の八割が水でおおわれているからだ。しかし、水のうち海水が90%をしめ、淡水は10%しか使うことができないのだ。だが10%もあれば、世界の人口分の水は使えるのだ。ではなぜ、コップ二杯分しか水を使えない国がでてくるのだろうか。それには、私たち日本人が関わってくるだろう。日本人やアメリカ人が、牛やぶたなどの肉を食べたり、ワインを飲んだりするには、水が大量に必要になってくる。多くの水はそれらに使われ、生産国の水が消えていくのである。私たちが肉やワインなどのものを食べるために、生産国の水が消えていくのは、とても大きな問題だと思う。それらの水問題を解決するためには、私たちが肉などの消費量を減らさなくてはならない。そうすれば、牛などの生産を減らせ、使える水が増えるだろう。

私たちが毎日、あたり前のように使っている水だが、このままではいつかはなくなってしまうかもしれない。このことを解決するためには、一人一人がむだな水の使い方をやめ、現在の世界の状況を把握する必要がある。私は思う。水の大切さについてみんなが考える事が出来れば、コップ二杯分だった国も日本のように沢山水を使えるようになるのかもしれない。私の祖母が雨水をため、飲料以外の水を使っているのも、私との意識の仕方が違うからだ。私は思う。一人一人の水に対する意識を変えれば、また違う世界があるのかもしれない。

【佳作（環境生活部長賞）】

これは九年後の私の水タイムカプセル

気仙沼市立松岩中学校

一年 小松愛日

私は今、水について全然というほど知りません。だが、水についての知識を増やして生かしたいと思っています。なぜそう思ったのか、私の以前の事について体験、そしてそのことからどう思ったか書いていきたいと思っています。

まず私がなぜ水について知ろうと思ったのかそれは身近な姉の影響です。私の姉は水が大好きで誕生日にも飲料水をプレゼントでもらうほどです。そこで、水について知ろうと思いました。他にも家の洗面所の蛇口が壊れ、水が出なくなったことも今回、私が水について考える原因になります。

以前までの私の水に対する印象は、透明、地面に当たるとはじく、入れる器が異なると水の形もかわる、など授業で学んだことの他にも感じたり、考えたりしたことはありませんでした。ですが私はこの知識で私は水についてすべてを知った気でいました。姉の誕生日のあと初めて私は「水」とインターネットで検索しました。そこで軟水と硬水という種類があることを知りました。言葉を聞いたことはありませんでしたがそれぞれが水のことだとは思っていませんでした。他にも水は水素と酸素の化合物だということや、水にも成分によって味の違いがあるということを知りました。私は、だからミネラルウォーターにも値段の違いがあったのかと思いました。ところがここで私は驚きの記事を目にしました。それは、世界で約二十一億人およそ世界人口十人に一人が安全な水を手でできないということです。また、約四十五億人およそ世界人口十人に六人が安全に管理されたトイレを使うことができないということを知りました。私は衝撃を受

けました。しかし、その記事は他に安全な水を確保できないために毎年三十六万人の五歳未満児が命を落としていること感染症の伝染もきていること、安全な水を使用できないこと、二十一億人のうち八億千四百万人が生活に必要な基本的水を手でできないこと、その人々の中で二億六千三百万人が往復三十分以上時間をかけて水を汲まなければいけないこと。更にはその中一億五千九百万人は未処理の水を飲んでいることを知りました。私は、なぜこのようなことを今まで知らなかったのか、と思いました。しかし、それと同時に、今後の世界は大丈夫なのか。私の将来は、日本は大丈夫なのかと未来が不安になりました。

その時学校にあるSDGsのポスターに水に関する項目があったことを思い出しました。それは、「6、安全な水とトイレを世界に」とあり誰もが安全な水とトイレを利用できるようにして、自分たちでずっと管理していけるようにしよう、と書いてありました。私は、そのSDGsの項目について調べてみました。私に何かできることがないかと思ったのです。

基本的な節水はもちろん汚水を減らせるような工夫もしていきたいと思いますが、ほんの少しのことだから意味がないのではないかと考えました。母に相談したら「小さなことだけど、積み重なったら大きくなるし、あなた以外の人もたくさん行動すると、もっと大きなことになるよ。」と、言ってくれました。SDGsは世界中で十七の目標を掲げています。その中のたった一つかもしれないですが二〇三〇年まで地道に努力をしていけば、いつか世界の手助けとなるのではないかと考えます。また、私が行動したら周りもそれにつられてたくさんの方が行動してくれるかもしれません。

私は中学一年生なのに水について何も知らなかったのだと感じました。しかし、私はこれから水に関する知識をたくさん身に付け、まず身の周りの人たちに伝えていきたいです。二〇三〇年まで後九年。九年後私は二十二歳その時世界の水問題はどうなっているだろう。

これは九年後の私の水のタイムカプセル。

【佳作（環境生活部長賞）】

身近にある大切なもの

石巻市立青葉中学校

三年 庄子 礼

「人は水と睡眠さえしつかりとれば、食べ物が無かったとしても二、三週間は生き延びられる」と言われている。実際、食べ物がなく状況に陥ったことがある人は数少ないだろう。このような言葉を聞いても、しつくりこない人多そうだ。私もその一人だ。そこで私は考えた。

もし水しかない時に山で遭難してしまった場合どうするか。必然的に水を飲んで生き延びるしかない。持っていた水はきれいでもそれを飲み切った場合には、川の水などを飲まざるを得ない。日本は蛇口をひねればきれいな水が出て、いつでも水を飲める環境にあるため、水と言ったら「きれいで安全」ということが当たり前になっている。ただし、山で遭難して自然の水を飲まなければならない時その水は、茶色い水かもしれない。百パーセント安全ではないかもしれない。それでも、生き延びるために人はその水を飲むだろう。私は出来ることならきれいで安全な水を飲みたい。そう思うのは私だけではないと思う。人はこのような状況に陥ってやっと当たり前のようになっていることがどれだけ幸せなことなのかを実感する。そう気付いた時には遅いこともたくさんある。だが、気付いたのなら意識を変えるだけで幸せになる人もたくさんいると思う。

他にも考えた。日本の水道は蛇口があつてきれいな水が出る。では他の国はどうだろうか。他の国も日本と同じように蛇口からいつでもきれいな水が出るのだろうか。世界では、十億人以上の人々がきれいな水の安定した供給を受けられないというのが現実である。劣悪な衛生状態にある人々の数は、世界人口の三分の一以上に当たる二十四億人だ。また水の供給や衛生施設が不十分なために起こる病気が原因で、毎年二百二十万人以上の

人々が命を落としている。私たちが飲んで、生きるために必要な水が、他の国では病気や命を落とす原因になっていることもあることが分かる。世界的に見ても日本は恵まれた環境だ。だからこそ、私たちに出来ることのあるのだと思う。例えば、蛇口をひねればいつでもきれいで安全な水が出てくるといった環境への感謝の気持ちを忘れないこと、世界中の人々がどうしたらきれいな水を使えるようになるかを考えること、そして節水すること。節水は節電に繋がりが節電は世界的問題の地球温暖化の抑制へと繋がる。節水も抑制に関わっているのだ。人それぞれ違った方法でいい。なぜなら、自分が出来ることからすることが大切だからだ。中には「一人でやっても効果がない」と思う人もいるかもしれない。だが、最終的に水について真剣に考えることが大切なのだと思う。やり方が違ってても、思いはみんな同じであると思いたい。一人一人の行動や意識が、身近な人から世界中の人へと、たくさんの人を笑顔に出来るかもしれない。やろうと思う気持ちがあれば、必ずやり切れると私は信じている。どんなに小さな積み重ねでも、みんながやればやがて大きな積み重ねへと変わっていく。

一人でも多くの人々が笑顔になれるように、今日も私は小さなことから始めていく。

【佳作（環境生活部長賞）】

美しい水の風景

仙台市立郡山中学校
三年 畠山紗世

私は、大好きな読書を通じて、水について改めて考えました。私が好きなのは古典で、特に鴨長明が書いた方丈記の一文「ゆく川の流れば絶えずして、しかもとの水にあらず」という、川に自身の気持ちのせて表現しているのが印象に残りました。また、有名な古典の百人一首にも、水の流れや川をみてつくられた句が多くあります。いったい、川のどんなところが人の心を動かすのでしょうか。

第一の要因は、色です。川を想像してみてくださいと言われたら、多くの人は透き通るような青や水色を思うでしょう。水のイメージも、青や水色が多いと思います。しかし逆に、汚れた川を想像してくださいと言われるら、今度はほとんどの人が、茶色や緑に変色した川を思い浮かべると思っています。このように、水の色によって川のイメージが大きく変わるので、それが、川の美しさを分ける一つの理由です。

第二に、透明度です。美しいと感じる川は、川の底が見えるほどに透き通っています。さらに、川が透明だと、自然と冷たいと想像します。逆に、にごった川であると、生ぬるそうで、危険だと思ふ人もいます。水の透明度も、川の美しさの一つです。

最後に、周りの自然です。直接川や水に関わることでありませんが、とても大切なことです。例えば、桜の花びらが川に流されていくのを見て、春が来たなと感じます。百人一首でも、「ちはやぶる神代もきかず竜田川からくれないに水くくるとは」と、紅葉で真紅に染まった川を見て、風情を感じています。また、気象によっても変わります。太陽の光をうけて輝いている川を見て、雪が降って一面銀世界な中に、水が冷たく流れる

のをみて、人は自然と心を動かされるのです。

色、透明度、周りの自然。この三つの要素が、川を美しいと思わせる要因だと思います。

私が挙げてきたことはすべて、普通に川を見てみると気づかないような当たり前のことです。しかし、その「当たり前」が今失われようとしているのです。水が洗剤や生活排水によって汚染され、川が緑色や茶色に染まってきています。それによって透明度がどんどん落ちていっています。私達が思い描いている川とは全く違う風景になってきています。周りの自然もそうです。川の近くにあった緑や木々は、いつしか黒や白の家に変わり、美しい花が咲いていた所にはビルが建ちました。これは川だけではなく、自然に関わるもののほとんどが、今破壊されようとしているのです。人が心を動かされた美しい景色が、人の手によって壊されていくのです。今はまだ実感がわかないかもしれませんが、十年、二十年先の未来、その川を見た人々がみんな「美しい」と思えるでしょうか。私は、このままでは、汚れた川が当たり前になってしまうと思います。

今、まだ川が美しいと思える今こそ、その状態を保ち、さらに良くしていくべきだと思います。水を出しっぱなしにせず、節水を心がけること、洗剤のときは、洗剤を使いすぎないように古布などでふいてから使うなど生活の中でできることから始めましょう。それがたとえ小さな一滴だったとしても、積み重ねれば必ず、美しい川が取り戻されます。川だけではなく、地球全体にも良い影響を与えます。変えていくのは私達ひとりひとりです。自然の美しい川を、これからも残すために、水の大切さをもう一度考えて使いたいです。

《第43回「全日本中学生水の作文コンクール」募集概要》

1 作文のメインテーマ

「水について考える」（題名は自由）

2 応募資格

令和3年度に在学中の中学生

3 原 稿

400字詰原稿用紙4枚以内で、日本語により表記された個人作品に限ります。

4 応募締切日

令和3年4月23日（金）必着

5 応募方法

作文には、本文の前（原稿用紙枠内）に①題名、②学校名（ふりがな）、③学年、④氏名（ふりがな）を記入し、次の送付先に示す宛先に送付してください。

6 問合せ・送付先

〒980-8570 仙台市青葉区本町三丁目8番1号
宮城県環境生活部 環境対策課 環境影響評価班 あて
問合せ先 電話：022-211-2667（直通）
Eメール：kantaie@pref.miyagi.lg.jp

7 審 査

応募作品の中から、県の地方審査会（県予選）で内容が優秀と認められる作品10編以内を選考し表彰します。また、これらの中から特に優秀と認められる作品5編以内を選考し、国土交通省の中央審査会（全国大会）に推薦します。

なお、選考に当たっては、次の観点から審査します。

- ・抽象的あるいは観念的なものでなく、日常の生活や学習、地域における水とのかかわり等を通じて得たことが、具体的に盛り込まれていること。
- ・「テーマ」が的確に設定されており、水の貴重さや水資源開発の重要性、水環境の大切さ等が、中学生らしい視点で記述されていること。
- ・将来の夢や希望、提案等が盛り込まれていること。

8 賞及び賞品

(1) 地方審査会（県予選）

- ・優秀賞（知事賞） 3編以内：賞状、副賞
- ・入 選 3編以内：賞状、副賞
- ・佳 作 4編程度：賞状、副賞

(2) 中央審査会（全国大会）

- ・最優秀賞（内閣総理大臣賞） 1編：賞状，副賞
- ・優秀賞 9編程度：賞状，副賞
- ・入選 30編程度：賞状，副賞
- ・佳作 100編程度：記念品
- ・一日事務所長体験（最優秀賞及び優秀賞受賞者のうち，希望者）

9 入賞発表

(1) 地方審査会（宮城県予選）

6月中旬に在籍する中学校を通じて御連絡します。

(2) 中央審査会（全国大会）

7月中旬に在籍する中学校を通じて御連絡します。

※入賞作文については，作文のほか，記載された学校名・学年・氏名を国土交通省及び宮城県のホームページや作品集に掲載するほか，報道機関を含めた関係者へも提供することとなりますので，予め御承諾の上，御応募ください。

10 著作権等

- ・応募作品は自作の未発表のものに限ります。
- ・入賞作品の使用権は，主催者に帰属します。
- ・応募作品の返却は行いません。

11 個人情報の取扱い

本コンクールの応募作品に記載の個人情報は，本コンクールの運営に必要な範囲内で利用します。応募者の同意なく，利用目的を超えて転用することはありません。

12 その他

下記ホームページに募集案内を掲載していますので，御参照願います。

<http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/index.html>

「全日本中学生水の作文コンクール」中央審査会における本県のこれまでの入賞者

年度	賞	中学校名	学年	氏名	作品名
第1回 (S54)	国土庁水資源局長賞	仙台市立五橋中学校	3	阿部 克也	大切な水を考える
第2回 (S55)	入選	石巻市立住吉中学校	3	池田真希子	水は生命の泉
第5回 (S58)	入選	仙台市立八木山中学校	3	渡辺 保之	循環の運命をにぎるもの
第6回 (S59)	国土庁水資源局長賞	仙台市立八木山中学校	3	中村 起也	すばらしい贈り物
第10回 (S63)	入選	七が宿町立関中学校	2	村上 真希	一滴の水の中に
第11回 (H元年)	入選	仙台市立八軒中学校	2	杉測 幹樹	潤いをもたらすもの
第12回 (H2)	入選	河南町立河南西中学校	3	遠藤 久美	水と私たち
第13回 (H3)	入選	仙台市立第一中学校	3	石川あかね	山上清水を守ろう
第15回 (H5)	国土交通大臣賞	白石市立小原中学校	1	斉藤 学	水のありがたさ
第16回 (H6)	国土庁20周年記念特別賞	仙台市立第一中学校	3	佐藤 愛	大地からのプレゼント
第17回 (H7)	入選	仙台市立第一中学校	1	渋谷 智子	水はみんなの友達
	入選	宮崎町立宮崎中学校	3	庄子 まり	水に命をかける人
第18回 (H8)	入選	仙台市立第一中学校	2	渋谷 智子	四谷用水にまなぶ
第19回 (H9)	入選	仙台市立第一中学校	3	渋谷 智子	水と共に生きる
第20回 (H10)	入選	本吉町立津谷中学校	2	三浦 大樹	貴重な資源の水
第21回 (H11)	入選	気仙沼市立松岩中学校	3	佐々木恵美	私たちが守る美しい水
第22回 (H12)	入選	仙台市立七郷中学校	3	木村可奈子	水とともに生きる
第25回 (H15)	入選	石巻市立稲井中学校	3	鈴木 舞	水が大好きな祖母
第26回 (H16)	入選	鳴子町立鬼首中学校	3	遠藤 愛子	水との絆
第30回 (H20)	入選	石巻市立石巻中学校	3	杉山 智香	水と共に生きる
第33回 (H23)	国土交通大臣賞	石巻市立石巻中学校	3	西牧 奏	水のある風景がなくなって
第34回 (H24)	入選	石巻市立河南西中学校	3	阿部 美樹	初めて気付いた“水とは何か”
第36回 (H26)	入選	石巻市立稲井中学校	2	勝然みなみ	少しの意識で変わる未来
第37回 (H27)	入選	登米市立中田中学校	3	渡邊ちなみ	「意識」を変えろ
第38回 (H28)	入選	石巻市立河南西中学校	3	土田 琴未	「水」への感謝
第39回 (H29)	入選	女川町立女川中学校	3	阿部 陽菜	感動を後世へと伝える
	入選	大崎市立古川西中学校	3	福原 史乃	未来への課題
第40回 (H30)	内閣総理大臣賞	宮城県仙台二華中学校	3	井崎 英里	時をこえて～未来へ～
第42回 (R2)	入選	仙台市立郡山中学校	3	大柿 楽々	水を守る～野蒜の地から学んだこと～
	入選	宮城県仙台二華中学校	3	西原 結花	水と共に生きる

令和3年8月発行

宮城県 環境生活部 環境対策課

〒980-8570 仙台市青葉区本町三丁目8-1
TEL 022 (211) 2667

